

援助における権力関係のゆらぎを利用した面接の効果 Aさんの就労継続支援

The effect of the interview, what happens when the power structure fluctuates?

宮原浩智

MIYAHARA, HIRONORI

広島県北部こども家庭センター

Hiroshima pref. northern center for children and family counselling (Child consultation office)

Key words: 権力関係, ゆらぎ, 主体性

目的

権力関係のゆらぎを活用した面接を実施することにより利用者の主体性（ないしは自主性，以下略）を引き出す面接を実施した。その効果について事例を通して明らかにする。

方法

面接の枠組みとして，外在化・コンプリメント・ワンドアポジションを多用し権力関係にゆらぎをもたらし，援助者である発表者ではなくAさん自身が課題やその対処を語るように仕向けた。効果については半構造化面接による聞き取りを行い検証した。

面接は5か月にわたり8回実施した。大きめの会議用テーブルに椅子数脚がある相談室で，コピーボード（90cm×140cm）を使い，発表者が筆記したものを印刷してAさんに渡し，発表者もその複写を保存した。なお，#5においてAさんにも筆記をする場面を用意したがやんわりと拒否されている。

効果検証のための質問は#7で実施した。
※事例は当日掲示する。また，本質を損なわない程度に改変しているものもある。また事前に発表内容についてAさんに提示し了承を得ている。なお，個別性が高い内容を含む部分は掲示を差し控える。

結果

Aさん自身からは，職場で困った状況が出てきたときにもとにかく何か言うという対処ができた，また，理由はわからないが周囲も自分に配慮してくれるようになったように思う，との報告があった。

Aさんの課題や対処についての語りも，#1と#2では相当の促しを要したが，#3以降は次第に増加した。また，明らかに表情が豊かになったと感じられた。

考察

介護保険や障害者支援，医療など現在のヒューマンサービスの諸制度においては，利用者は主体性を発揮し，カスタマータイプになることがほとんど「強要」されている。例えば，法的に無能力者とみなされなければ，契約の当事者になり自らの行く末を選択しなければならない。しかし当然ながら，その主体性の獲得が十分でない人も存在する。

そういった方々への補完的な教育を行うことによって，一方では主体性の獲得をより確実なものにして，課題解決に向けた意欲の向上や技能の向上を引き出し，他方では主体性獲得の限界を周囲に示して適切な支援を引き出すことは（発表者としては忸怩たる思いはあるものの）いくらかの利益をもたらすと思われる。

Aさん自らが自身の解消すべき課題を設定し，解消に向けて，できていることとそうでないことを仕分けし，解消へ向けての意欲と上司の支援を引き出すことができた。権力関係のゆらぎを支援において利用することの利点をひとつ明らかにしたものである。

今後は他の利点～たとえば支援の質・量を査定するツールとしての活用可能性も想定しながら実践をすすめたい。

参考文献

- Paul Watzlawick, Don D. Jackson, Janet Beavin Bavelas (1998=1967) 人間コミュニケーションの語用論, 二瓶社
Michael White, David Epston (1992=1990) 物語としての家族, 金剛出版
井上直美, 井上薫 (2008) 子ども虐待防止のための家族支援ガイド, 明石書店
津下 一代 (2007) 図解 相手の心に届く保健指導のコミュニケーション 10 のポイント, 東京法規出版